

ユーモア交え 快活に問題提起

「山下純一のバリアフリーFUNK」

ラジオ大阪(土曜深夜3時半)

全盲で車いすのミュージシャン、山下純一(45)がパーソナリティーを務めるトーク番組。

山下はラジオを「心のバリアフリーメディア」と言う。

「姿が見えない分、障害者という先入観にとらわれずに聴いてもらえるから」

2歳頃から手足が痛む原因不明の病に見舞われ、小学生で車いす生活に。20歳頃には視力も失ったが、ハーモニカと出会い、エネルギッシュな演奏で人々を魅了する。

番組開始は、2016年。時計が見

えないため、振動で時間を知らせるタイマーを使うが、収録時間を大幅に超えてしまうことも少なくない。「ディレクターはすごい顔をしてるかもしれないけど、自分には見えないから」と笑い飛ばす。

時事問題や、障害者が直面する問題についても積極的に発言する。8月下旬の放送では、ある人気テレビドラマに音声ガイドがない

ことを指摘。テレビ制作者側に物申した。言うべきことは言いつつも、きつい印象を与えないのは山

「リスナーは友達。会ったことはなくても、心と心で交流している」と話す山下



下の話術ゆえ。端々に感じられるユーモアで、リスナーの心をギュッとつかむ。

「『差別』って言葉は語感が強いから使わない。多様なものの見方を伝えることで、リスナーが発想を転換する手伝いできれば」。その快活な声に耳を傾けるうちに、世界の見え方が少しずつ変わってくる。

ラジオ
ON!

